

■学校経営のポイント

いじめ・不登校・虐待の点検と指導・対応

小島 宏

新年度が始まって1か月余り、子ども達の行動や学習に気がかりなことが目に付く頃である。この時点で、いじめや不登校、児童虐待などについて点検し、適切な指導・対応をしたい。

校長のリーダーシップ

校長は、教職員にハウレンソウを求める。でも、校長から教職員に対して「この件は、教育委員会でこう決まりました(報告:完了形、決着がついている)」「このことはこうなっています(連絡:現在進行形、今後動きがある)」「……についてこう考えるがどう思うか?(相談:判断などのヒントを得る)」というように逆ハウレンソウを勧めたい。これも校長のリーダーシップの一つ(変化球)と考えたい。教職員の自発性(自分から)と主体性(自分で)を喚起するに違いない。

点検の要点

担任の観察(子どもの身体、授業中や休憩・清掃時などの態度・表情、他の子どもの反応)、出席状況、他の教職員の気付き、保護者・地域住民からの連絡・相談などから現状を捉えることができる。また、アンケートや本人からの相談や聞き取り、前担任の話や昨年度の諸記録も手掛かりになる。

指導と対応の8つのポイント

第一は、いじめ・不登校・虐待の事実や兆し、子どもの困っていることを鋭く見つけ、問題点を特定し、個別に整理し、資料として関係者で共有する。

第二に、当該の子どもの安心・安全・安定した学校生活や学習活動、特に子ども同士の間人関係、家庭での状況に応じた指導・対応が重要である。

第三に、その子の心情に寄り添った親身の指導・対応となるようにする。

第四に、「困った子」でなく「困っている子」という子ども目線に立ち、子どもの困っていること、子どもの悩んでいること、子どもの危機を察し、見つけ、受け

止め、これらが緩和・解消するように指導・対応・支援することが肝要である。

第五に、指導・対応に当たっては、チーム学校として組織的に取り組む必要がある。教員・職員・専門スタッフが一貫した方針で、協働して指導・対応に当たるようにする。

第六に、個人情報保護に配慮しつつ保護者・PTAの理解と協力のもとに進めることも大切である。特に、関係する保護者に丁寧に働きかけ、理解と協力を得て進めるようにする。

第七に、状況に応じて、教育相談所や児童相談所、警察署などの諸機関と連携し、専門的な助言・援助を得ることも必要である。

第八に、いじめ・不登校・虐待は、当該の子どもが一番困っていること(傷ついていること)に思いを致し、「これくらいは……」「たいしたことない……」「あとで……」というようなことのないよう迅速・適切な指導・対応が求められる(TVや新聞報道をあげるまでもなく、なぜその時適切な対応を取らなかったのかという痛恨の事案が多すぎる)。

ミドルリーダーの動き

校長のリーダーシップと教頭のマネージャーシップに加え、ミドルリーダーの誠実な取り組みとメンバーに対する働きかけが効果を表す。ミドルリーダーの指導・助言にも配慮をしたい。

子どもの人間関係の効用

忘れてならない大事なことは、子どもの人間関係である。学級の和やかな雰囲気や子ども同士の好ましい人間関係が「困っている子」の心を安定させたり、いじめを牽制したり、安心して登校する後押しになったりする当たり前のことを再認識したい。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●命令口調・上から目線の言葉かけを笑顔とやる気を引き出す言葉かけに!

小学校 子どもがかがやく ポジティブ言葉かけ辞典

【編集】会沢信彦 四六判変型・216頁/定価(本体1,800円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

